

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	あいのさわがわそうごうないすいたいさくじぎょう
1. 事業(施策)の名称	相ノ沢川総合内水対策事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成 31 年度 ~ 令和6年度
3. 事業費(工事費)	300 百万円
4. キーワード	総合内水対策、流域治水、国・県・市連携、床上浸水回避
5. 事業概要	<p>本事業は、四万十市楠島地区の抜本的な内水対策を実施するため、国土交通省、高知県、四万十市の三者が連携し、中筋川左岸にある清水樋門から上流 200mの位置に新たに楠島川からの放水路を設けることにより、楠島川の洪水流量 55 m³/s を中筋川へ流すものである。工事は国が楠島川排水樋門、高知県が放水路、四万十市が楠島第二排水機場の設置を実施した。これにより相ノ沢川が中筋川と合流する清水樋門地点の洪水流量を減らすことが可能となる。合わせて、四万十市ではソフト対策のほか、土地利用の規制を行うことで、水害に強い地域となるよう、土地利用のルールづくりを進めている。</p>

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	() () () ()	(i) その他(3者で工程調整、土地利用規制) () () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a) 当該事業による本来目的の効果 (k) 施工の合理化・効率化 () ()	() () () ()

7. 特にアピールしたい点	<p>現在全国的にも取り組まれている流域治水の先進的な取組であり、国・高知県・四万十市の3者が連携して内水対策を実施した。国・県・市による「相ノ沢川総合内水対策協議会」を設立し、3者が連携してハード・ソフト両面からの計画検討、協議を重ね、内水対策計画を策定し、また工事実施中は定期的に連絡調整会議を実施し、工程調整や管理に向けた協議等に取り組んできた。</p> <p>また令和5年6月の梅雨前線による出水では、この事業により、国道 56 号道路冠水による通行止めの回避及び浸水面積を約6割減少させるなどの効果を発揮した。</p>
---------------	--

8. 事業を代表する写真及びキャプション



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

◆位置図



高知県四万十市
楠島地先



◆事業内容

■平成26年6月の梅雨前線豪雨により、具同・楠島地区(相ノ沢流域)では、相ノ沢川及び楠島川沿川で内水により浸水面積約105ha、床上71戸、床下25戸の深刻な浸水被害が発生。

■これを受けて、四国地方整備局、高知県、四万十市の三者は、平成28年8月に『相ノ沢川総合内水対策計画』を策定し三者が連携しハード・ソフトの両面から総合的な内水対策として、排水樋門、放水路及び排水機場の工事を実施。工事实施中は定期的に連絡調整会議を実施し、工程調整や管理に向けた協議等に取り組んできた。

【2-①-(k)】

◆施設の特徴

楠島第二排水機場(四万十市)



◆排水機場の諸元

- ・Φ800 水中ポンプ 2基
(総排水量 3 m³/s)
- ・自家発ディーゼルエンジン 2基
- ・発電用燃料地下タンク 1基
- ・除塵機 1基
- ・機械格納建屋(待機室含) 1基

放水路(高知県)



◆放水路の諸元

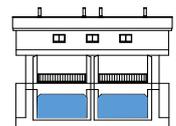
- ・(55 m³/s)
- ・底幅 10.5m
- ・L=146.7m

楠島川排水樋門(国土交通省)



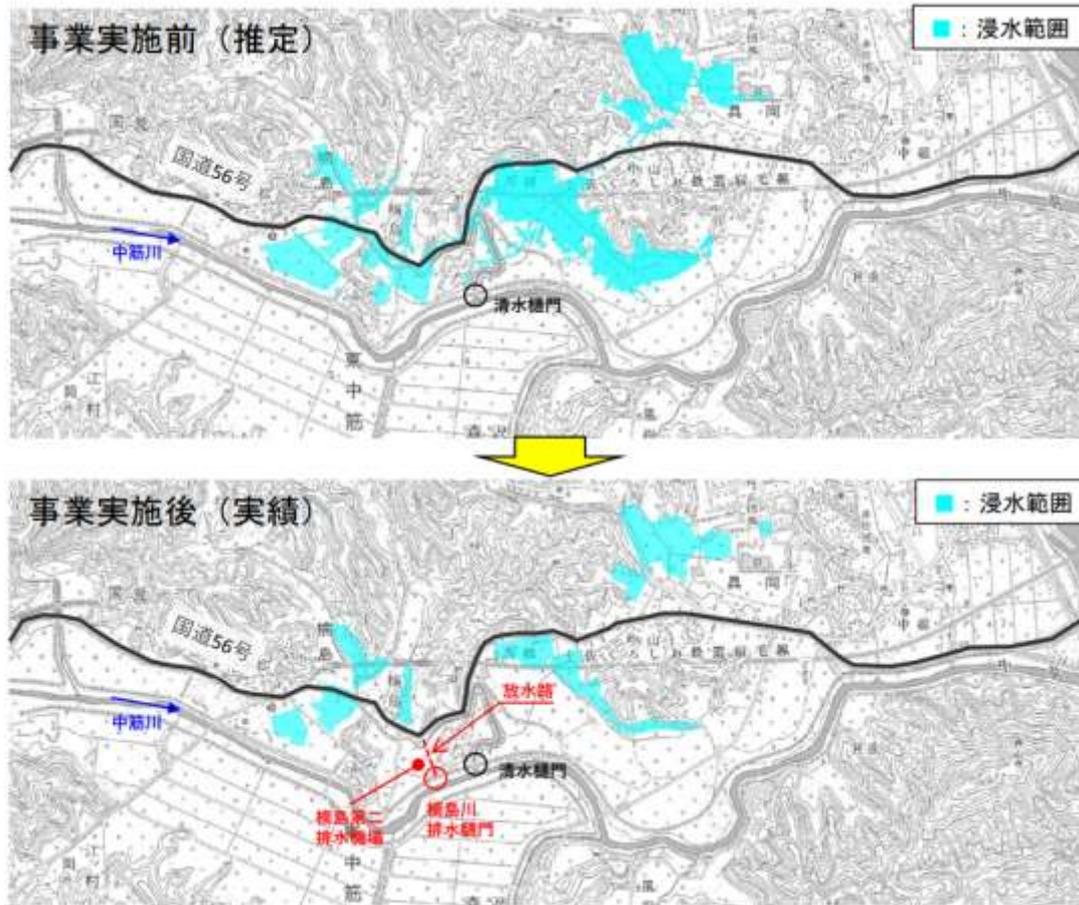
◆排水樋門の諸元

- ・幅 6.0m
- ・高さ3.0m
- ・門数2門
- ・延長32.2m
- ・ローラーゲート 2門

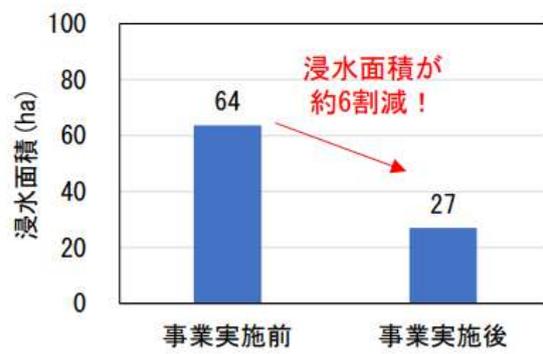


相ノ沢川総合内水対策事業の効果

- 令和5年6月の梅雨前線により、中筋川上流域で累計 370mm の降雨を観測し、中筋川の磯ノ川地点で氾濫注意水位 5.5m を超えるピーク水位 6.94m の出水となった。
- 今回の出水で、相ノ沢川及び楠島川流域のうち 27ha が浸水したが、事業を実施していなかった場合の浸水面積は 64ha と推定され、この事業により、国道 56 号道路冠水による通行止めの回避及び浸水面積を約6割減少できたものと考えられる。【2-①(a)】



令和5年6月2日楠島第二排水機場排水状況



事業実施前後の浸水面積